

就任あいさつ



副センター長

に い だ ゆういち

新飯田 裕一

4月より副センター長に就任しました新飯田です。どうぞよろしくお申し上げます。兼務職として従来の医療安全推進室長と当面放射線部長、手術・集中治療部長を担います。近い将来外科系の副センター長が就任される予定であり今回より副センター長(内科系)という役職をいただきました。

湯谷事務長、副センター長(療育)、畠山看護部長とともに鈴木センター長を支えながらコドモックルを維持・発展させていく要の役職と考えております。小児に特化した総合医療センターは全国各地にあります。医療と療育が同じ組織内で活動する形態は日本でも初めての出来事ではないかと思われま

す。コドモックル開設から8年が過ぎましたが、医療と療育が同じ施設内、同じ組織として活動していくかたちが、これからの医療の理想型であると確信しております。私が小樽市銭函で小児の総合医療を20年間行ってきたなかでは気づかない事でした。

医療の進歩により致死的な疾患はなくなりつつあるという実感がありますが、染色体異常などの先天奇形症候群としての発育・発達遅延を克服するにはさらなる医療の進歩を待たなければなりません。全道各地から当センターに紹介されるいわゆる難病をかかえた児は急性期の医療を乗り越えてから慢性期医療と早期療育を並行させながら生活基盤を築いていく必要があります。

運動面、知的面、情緒面での不安定さを医療と療育が支えながら、さらには地域での訪問看護やレスパイト(ショートステイ)などの発展により在宅医療を要する患児とご家族が肉体的・精神的余裕と生き甲斐を持ちながら生活できるような体制づくりを行っていくことも当センターの使命であると思っています。



第一外科部長

ぬい あきひろ

縫 明大

4月より前職の平間敏敏副センター長(兼、第一外科部長)の退職に伴い、第一外科部長に就任いたしました。私は平成8年4月に、前身の道立小児総合保健センターの小児外科に赴任して以来、これまで当施設で小児外科一筋に勤務して参りました。この間、前任の平間部長のもとで小児外科医療の研鑽を積まさせていただきましたが、このたび、その平間部長の後を引き継がせていただけることは大変光栄であるとともに、身の引き

締まる思いであります。

当施設のような小児専門の医療センターの特色であり、重要な職務のひとつとして、適切な外科医療の提供があります。小児、特に新生児に対する迅速かつ適切な外科医療を提供できる施設は本道では非常に少なく、そのひとつが当施設コドモックルです。私の担当する第一外科には小児外科、小児泌尿器科、小児脳神経外科がありますが、これまで各科の科長を中心として、それぞれの専門分野で安全で適切な医療の提供に努めて参りました。これからも私の専門分野である小児外科はもとより、小児泌尿器科、小児脳神経外科においても各科長の先生たちのもと、より安心してお子様を任せていただけるよう、外科医療を充実させていく所存であります。今後ともよろしくお願いたします。



事務長

ゆたに たかひろ

湯谷 隆博

4月から事務長として着任しました湯谷です。前任は道庁で障がい者(児)施策を担当しておりました。これまで道庁のほか、振興局や保健所、平成9年から3年間、当センターの医療部門の前身である小児総合保健センターに勤務しておりました。当時は、庁舎の老朽化により、毎日のように

どこかが壊れ、修繕・補修に明け暮れ、また、狭隘化も顕著で、新たな施設の必要性を痛感しておりました。

平成19年に、愛称：コドモックルとして、出生前から一貫した医療と療育を総合的に提供する施設として開設されたときは、個人的に大変感慨深く思ったところです。それが、まさか月日を経て勤務することになるとは、思ってもいませんでしたが、道内における小児医療の最後の砦として、医師をはじめとした医療スタッフはもとより、センターに勤務する全ての職員が、日々、研鑽し、将来を担う子どもたちの生命をまもり、健やかな成長・発達を支援するため、努力されております。

私もその一員として、少しでもお役に立てるよう努めて参りますので、よろしくお願いたします。

新任あいさつ

	氏名	診療科	大学卒業	出身地・大学	趣味	コドモックルでの抱負、モットー
	二階堂弘輝	神経科	1995年	釧路市・札幌医大	旅行とスポーツ鑑賞かな。	あせらず、ゆっくりと診療していこうと思えます、どうぞ宜しくお願い致します。
	小関 直子	神経科	2004年	旭川市・旭川医大	スイミング、パン屋さん巡り	いろんな患者様の診療に関わりながら経験を積み重ねて行けたらと思っています。
	加藤 伸康	心臓血管外科	2006年	北 大	アイスホッケー・ゴルフ	前任の先生に負けないよう頑張ります。
	寺田 拓文	麻酔科	2007年	茨城県・旭川医大	美味しいコーヒーを飲むこと	優しい麻酔を心掛けます。
	菅野 麻琴	麻酔科	2010年	札幌医大	体を動かすこと	皆さんと一緒に頑張ります！！
	野藤 誓亮	泌尿器科	2011年	森町・札幌医大	読書・スポーツ	一人一人丁寧に診察するよう心掛けます。
	東出 侑子	小児科	2011年	札幌市・札幌医大	旅行・カフェ巡り	よろしく願いいたします。
	久保田ちひろ	リハビリ整形	2012年	室蘭市・札幌医大	スポーツ観戦！！	子どもたちと仲良くなる！！ポジティブシンキング！！
	大野 翔	麻酔科	2012年	札幌市・札幌医大	ブレイクダンス	精一杯がんばります。宜しくお願い申し上げます。
	井上 健司	小児科	2012年	和歌山・旭川医大	全国各地を転々とすることです。	しばらくお世話になります。
	甲谷 紘之	小児科	2013年	函館市・札幌医大	マンガ・柔道	不器用な自分ですが一生懸命頑張りたいと思います。宜しくお願いします。
	鈴木 比女	脳神経外科	2013年	札幌市・札幌医大	乗馬、城郭巡り、文房具集め	4月から3か月間という短い期間の勤務となりますが、誠心を持って患児、患児の親御さまと接していきたいと思っています。

産科が再開しました



4月より当センター産科に赴任しましたイシゴウオカです。清水の舞台から飛び降りて手稲にやって来ました。老後の生活も考えずにこんな転勤をする変わり者(50代以上の勤務男産科医は北海道では絶滅危惧の変わり者と言われます)ですし、たった一人での再開ですので、医療スタッフのみならずセンター全職員に何かとご迷惑ご苦労をおかけすると思いますが、ご助力よろしく願いいたします。

旭川医大卒業後、関連病院を回って、念願かない産科志望し大阪府立母子保健総合医療センターであのコウノドリモデル萩田先生達と研修し、その後は周産期を中心にやってきました。地域周産期センターである基幹病院の産婦人

科を閉鎖した経験もあり、4度目の大学を離れた後は地域(一線)から道周産期医療を守ろうとしてきました。残念ながら常勤産科医数(特に男性)は先細りの一途で、最早中央を死守するしかないかと考え始めた時、当センター産科休診3年目突入の危機を見てしまったものですから…。

リスクの多い科で単身なのに大胆?ですが、分娩再開が最大の目標です。母児分離を極力避けて新生児期の治療にスムーズに移行できるよう、全国でも珍しい特定機能周産期母子医療センターの役割を維持するため、母体(胎児)搬送をできるだけ受け入れていきたいと思っています。このため、外科系の諸先生方をはじめ皆様に援助をお願いすることもあると思いますが、ご理解ご協力よろしく願いいたします。